

良き師に出会った藤木さん



お手本を書く藤木さん

題字「輝く」揮う

藤木翠苑（ふじき・すい えん）さんは長野小学校1年生の時に、南河内地区の席書大会で、学年代表に選ばれ、大会で1位になったのがきっかけで、字を書くのが好きになったそうです。大学卒業後、結婚、子育てと、人生をエンジョイしていた時、偶然、炭山南木先生に電車でお会いしたのが、本格的に書道を始めるとききっかけになったそうです。それからは、書作品制作にかかせない漢字では、唐代の王羲之・虞世南・懷

素を始め、明・清・宋代の何紹基・米芾・蘇軾等の古典の臨書や、仮名では、平安時代を代表する高野切三種、関戸本古今集、秋萩帖等の仮名の古典臨書を積み重ね、毎日展・読売書法展・新書派協会展等で受賞し、念願の50歳代での、日展初入選をも果たしました。平成に入り、書道界の時代の波に乗って、世間の誰もが読める漢字かなまじり文の

調和体作品の制作にも、積極的に携わり、81歳を迎えた今、見る人の心に響く書が書ければと願って、自分なりに努力していると話してくれました。

「夫婦波」に感動、池辺さん



自宅てくつろぐ池辺さん

12面の写真

12面の写真は、和歌山のJR見老津駅の近く、国道42号線沿いに壮大な景観が

そして炭山南木先生、近藤撰南先生とのお二人の良き師にめぐり会い、家族の温かい助けに支えられながら、好きな書が続けられた「今が幸せ」と題字の「輝く」境地にいるようです。現在は、川上公民館、くすのかホール、自宅で教えています。

広がっています。激しい海流が陸の黒島に当たり、真っ二つに裂けた波が再びぶつかり合う様は「合掌波」や「夫婦波」と呼ばれ、枯木灘を代表する奇観です。池辺稔（いけべ・みのる）さんは「人として生まれてきて、示唆された思いで撮りました。自然風景は、いつも感動を与えてくれる教師です」。池辺さんは清見台在住の

80歳。退職されて奥さんと一緒に写真を撮り続けていましたが、奥さんが病気で他界したため、しばらく撮るのを休んでいましたが、「日本にもこんな素晴らしいところがあるんだなあと感動を写真に納めていきたい。好きな写真があるから出か

四季を撮り続ける藤井さん



被写体を探す藤井さん

表紙の写真

藤井庸利（ふじい・つねとし）さんは、会社を退職直後は時間をもてあまし気味でしたが、最近趣味の写真、ソフトボール、ゴルフ、麻雀などを楽しむ一方、自分の経験が少しでも役に立てばとボランティア活動としてパソコン倶楽部、観光写真ボランティアも行って

ける楽しみがあります」と、自ら車を運転して元気に出かけています。この写真を選んだのも、奥さんのことを想い、「一緒に出かけ一緒に撮影したもので、コンクールに出品し受賞した中の1枚です」と、語ってくれました。

ています。

そして、元気に活動するために健康管理も必要なので、冬季以外は早朝にウォーキングで体を鍛えています。

表紙の写真は市内神ガ丘で沢山撮影した梅の花の中の1枚です。ウォーキングに行く時は、いつもカメラを携帯して撮影を兼ねて歩いています。ときには写真がメインになってしまいうこともあるそうです。

「河内長野市は自然がいっぱいで、近くには花の文化園もあり、四季折々の花や自然に親しむことができ、大変ありがたく思っています」。